

# 27 大内持世

## 抗争を勝ち抜き 祝いの宴に死す

1394~1441  
官位 従四位上 修理大夫  
菩提寺 澄清寺(庵寺)  
墓所 澄清寺跡付近(宮野下)



大内持世像  
(国立国会図書館デジタルコレクションより)

大内盛見没後にもまた、甥の持世・持盛兄弟の間で家督争いが起こります。盛見は公式には持盛を後継者に決めていたようですが、一方で家臣に持盛は当主に相応しくないとの遺志を伝えていたとされ、結局持世に惣領職、持盛に長門守護職が認められました。持世は筑前に渡り大友氏との交戦を展開しますが、陣中で持盛に襲撃され、長門国椿(現萩市)を経て石見国三隅へ逃れ、持

幕府支援による大軍を率いた持世は、筑前で少弐満貞を討ち、度重なる合戦の末、豊後国で大友持直が立てこもる姫岳城(大分県臼杵市・津久見市境)を攻め落とし、北部九州を平定しました。

各地で頻発する反乱に対処するため、將軍義教から持世に上洛命令が出されますが、九州の不安定な情勢を理由に応じず、父義弘の代から対立関係にあった少弐氏の赦免を、

持世が幕府に申し出るという不可解な行動に出ます。大内氏に敗れ対馬に逃れた少弐氏の困窮、倭寇化を防ぎたい朝鮮の意向を汲んだ策略とみられ、緊張解消につながる少弐氏の赦免を機に上洛。京都の六条にあった大内屋形は大火によって焼失しており、地元から用材を運び、屋形を花山院南八丁町に新造しました。今の京都御苑内宗像神社付近かと思われます。大名屋敷として最大規模のもので、大内氏の財力のほどを窺わせます。

### 嘉吉の乱

翌年、京都の赤松教康邸で將軍義教を招いて戦勝祝いの宴が催されました。猿楽が上演され酒盃

がまわされるさなか義教が赤松氏に殺害され、多くの諸大名は即座に退出する中、同席した持世は刀を抜いて防戦しますが重傷を負ってしまいます。

「赤松父子を誅戮せよ」との遺言を残し、ひと月ほど後に新築の屋敷で亡くなりました。亡父義弘の供養塔である瑠璃光寺五重塔が完成する1年前の事件でした。

当主として在京1年とされる持世ですが、歌人として新続古今和歌集に撰ばれており、あるいは若い頃、叔父盛見の上洛に同行し京文化に親しんでいたのかもしれませんが。



赤松邸跡付近(京都市)



京都御苑(京都市)



大内持世の墓(宮野下)  
明治に毛利元徳が持世菩提寺澄清寺跡に建立



木梨邸(桜畠)  
澄清寺塔頭涌泉庵跡と伝わる



洞春寺観音堂(水の上町)  
持盛菩提寺観音寺の遺構

### 持盛の末裔 牛久山口氏

安土桃山時代に尾張国で織田信長の家臣佐久間正勝に仕えた山口重政は、大内持盛の子孫で、一族は先祖の本拠地名から山口氏と称しました。のちに徳川家康に仕え、牛久(茨城県牛久市)に領地を与えられ、江戸時代11代にわたり牛久藩(一万石)の大名として治め、明治を迎えました。



大内持世像  
(洞春寺蔵)



篠崎八幡宮付近(北九州市)

盛は一時山口に入りました。幕府の支援を受けた持世は巻き返し山口を奪還、持盛は九州へ逃れ大友氏の庇護を受けます。持盛に配分されていた長門等も持世に与えられました。九州の反大内氏勢力の滅殺を図りつつ、幕府から大友・少弐討伐の命を得て九州へ渡り、豊前国篠崎での合戦で持盛を討ちました。

